

今別町地域公共交通計画【概要版】

1 計画の背景と目的

当町では、住民生活の移動を支える役割として巡回バスを運行し、町内の各地域から主要な施設を繋いでいるほか、2016年に開業した北海道新幹線・奥津軽いまべつ駅と町中心部も繋いでおり、多様な移動に対応しています。また、町外への移動手段としてJR津軽線が運行し、町外への通勤・通学をはじめ、通院や買い物などの多様な目的での移動に対応しています。

一方、自家用車を利用する世帯の増加や人口減少などの影響もあり、もともと巡回バスや鉄道の利用者数は低迷する状況にありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けさらに利用者は低下しています。さらに、2022年8月の豪雨災害によりJR津軽線が被災し、蟹田駅～三厩駅間が不通(2023年3月現在)となっており、青森市や外ヶ浜町などへの広域的な移動に対して大きな影響を与えています。

このように当町を取り巻く情勢等は大きく変化し続けていますが、今後も町民や来訪者などの移動を支え、多様な連携・交流の基盤となる公共交通を確保・維持することを目的として、当町が目指す将来像に対して、公共交通がどうあるべきかなどの方針を示すとともに、その実現に向けた一定期間でのゴール(着地点)の設定、着地点に向けた具体的な取組などを示す「今別町地域公共交通計画」を策定します。

2 計画の位置づけ・範囲・期間

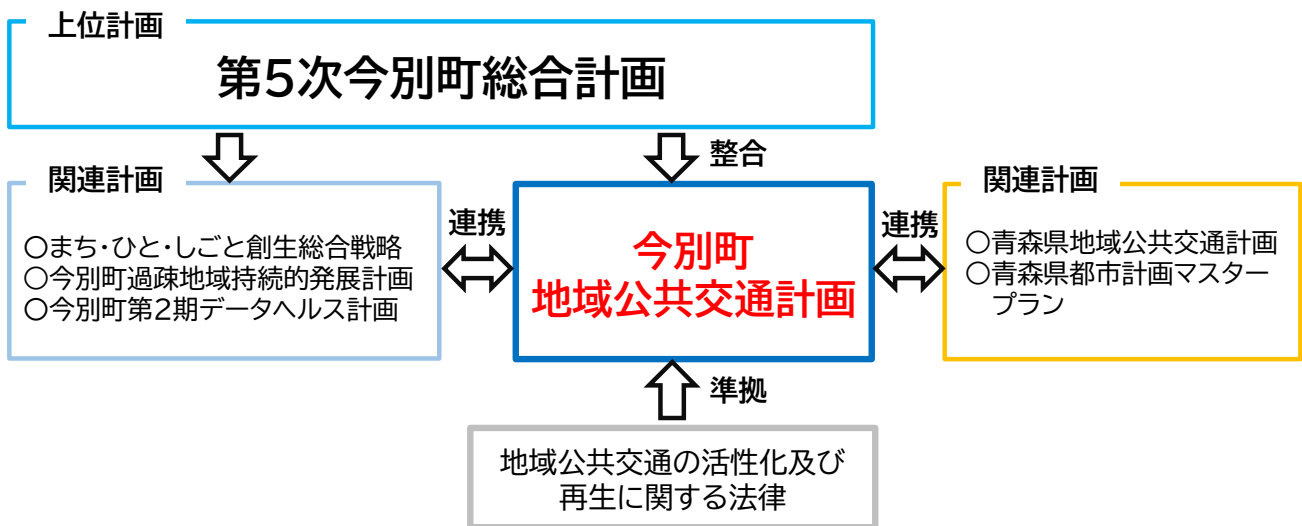


図 計画の位置づけ

計画区域:今別町全域

計画期間:令和5年度から令和9年度までの5年間

3 当町の地域公共交通の課題

課題1:さらに進展する高齢化を見据えた移動手段の確保が必要

○高齢化の進展により、日常生活において移動に制約の大きい町民が増加することが見込まれる中で、安心して暮らし続けられる生活環境を確保するためには、運転免許がなくても、買い物や病院などへ移動することができる環境を確保することが必要です。

課題2:町内の移動実態への対応した公共交通ネットワーク及び拠点の設定が必要

- 町内での移動時の利便性向上に向けて、買い物や通院などの町民の移動実態等を踏まえて、公共交通サービスの見直しを図ることが必要です。
- 当町におけるまちづくりの方向性なども踏まえて、街なかにおいて地域公共交通の核となる拠点の設定を検討することが必要です。

課題3:青森市や近隣町村への移動ニーズへの対応が必要

○町外への移動手段として運行する広域的な公共交通サービス(鉄道、乗合タクシーなど)を適切に確保・維持することにより、町外への移動ニーズに対応し、当町で暮らし続けられる生活環境を確保する(定住促進を図る)ことが必要です。

課題4:観光等との連携した取組の検討が必要

- 新幹線駅の奥津軽いまべつ駅から町の中心部へのアクセス手段などを確保・維持するとともに、情報面などのソフト的な取組なども並行して展開することによって、奥津軽いまべつ駅の更なる活用や観光振興への活用の検討を進めることが必要です。
- さらに、竜飛方面(外ヶ浜町)への観光客の移動ニーズを踏まえて、観光施策としての二次交通の確保などによる、新たな利用者の獲得についても検討を進めることが必要です。

課題5:公共交通を利用しやすい・わかりやすい環境の構築が必要

○バス停ごとの利用実態に応じた待合環境の改善(上屋・ベンチの設置など)や、デジタルコンテンツ(WEB 媒体など)やアナログコンテンツ(紙媒体など)での運行情報の発信強化などを進め、誰もが公共交通を利用しやすく、わかりやすい環境を構築することが必要です。

4 計画の基本方針・基本目標

■本計画における公共交通が目指す姿(基本方針)

生き活きとした暮らしを支え、町民に寄り添った公共交通

○町民の日々の多様な目的において、町内や町外へのおでかけ時の移動に利用することができ、町民のさまざまな活動の基盤となり、生き活きとした暮らしを支えるとともに、町民の生活実態や地域の特性などに合わせたサービスを提供するなど、地域の足として、町民に寄り添った公共交通を目指します。

■本計画のゴール(基本目標)

目標1:町内・町外への移動を支える公共交通サービスの提供

目標2:わかりやすく・利用しやすい公共交通の利用環境の構築

目標3:多様な連携を活かした公共交通の持続性の向上

5 目標の達成に向けた具体施策

施策1

町内の公共交通ネットワークの見直し

事業1-1:巡回バスの見直し

- 今別駅周辺を中心として買い物・通院・通勤・通学利用を想定したダイヤ等の見直しを検討します。
- バス停以外に乗り降りできるフリー乗降区間に関して、関係者と協議の上検討します。
- 平館回転所バス停において外ヶ浜町民バスとの接続を円滑にするため、ダイヤを見直します。

事業1-2:広域路線に係るあり方検討

- 青森県地域公共交通計画と連携し、広域的な公共交通ネットワークの確保・維持に努めます。
- 日常生活の移動手段として通勤・通学・通院に利用されているJR津軽線に関して、近隣自治体と連携しながら確保・維持を図ります。

事業1-3:タクシーなどの利活用

- 愛乗タクシーについて、北海道新幹線からの二次交通として維持します。
- 巡回バス・JR津軽線・わんタク・北海道新幹線ではカバーできない少数で分散した移動需要を満たす移動手段として、タクシーの活用及び相乗りタクシー事業を検討します。

施策2

利用環境の改善

事業2-1:交通拠点(ゲートウェイ・中心交通拠点)における接続性の向上

- 奥津軽いまべつ駅及び今別駅において、特に鉄道からの乗継が多い時間帯(通勤・通学の多い朝の時間帯など)、観光などの利用が見込まれる曜日・時間帯について、町内の公共交通の接続時間が適切になるように調整し、接続性の向上を図ります。
- 各交通機関でダイヤ改正の時間差による接続性の一時的な損失を防ぐため、関係者間(交通事業者、行政)でのダイヤ改正情報を共有します。

事業2-2:待合環境の整備

- 奥津軽いまべつ駅をゲートウェイと設定し、今別駅を中心交通拠点と設定し、鉄道・路線バス・コミュニティバスと乗り継げる待合環境を整備します。
- 郊外部等においては、バス停での待合環境や広域路線への乗継環境が十分ではないことから、地域内の支所や公民館、スーパーやコンビニ等を乗継拠点として位置付け待合環境の充実を図ります。
- 中心拠点・乗継拠点において、交通結節機能(乗場案内、乗継案内、行先表示等)を備えた総合案内板、乗場案内サイン、バス停盤面等の整備・改善を行います。

事業2-3:案内方法の見直し

- 町内の公共交通等をより多くの町民・来訪者等に使うため、巡回バス・北海道新幹線・JR津軽線・愛乗タクシー・わんタクの利用方法やゲートウェイ・中心交通拠点などの情報を分かりやすく示した「公共交通マップ」等を作成・配布します。

事業2-4:ICT技術やデータを活用したサービスの検討

- 巡回バスのダイヤや運賃を国の指定様式(GTFS-JP)への変換、及び当該データの公表(オープンデータ)や適切に更新することで、最新の情報が乗合情報案内事業者等に提供される情報発信を維持します。

施策3

分かりやすい利用環境の整備

事業 3-1:観光施策と連動したサービスの企画・展開

○これまで取り組んできている観光客向けサービスを更に継続・拡充させ、観光二次交通の充実を図ります。

事業 3-2:利用案内・待合環境の整備

○教育分野と連携し巡回バスに触れ合う機会を創出し、公共交通に対する意識向上を図ります。

○福祉分野と連携し、健康づくりに着目した公共交通の取組を展開します。

事業3-3:住民協働による移動手段について考える場の構築

○移動に関する困りごとを抱える地域住民等を対象に、公共交通の利用方法等を説明する意見交換会を開催します。

6 評価指標

以下の評価指標により、計画の進捗状況の評価・確認していきます。

目標1の評価指標:町内・町外への移動を支える公共交通サービスの提供

現況値	7.4 回/年・人	目標値(2027)	8.4 回/年・人
-----	-----------	-----------	-----------

目標2の評価指標:交通拠点・待合環境の整備箇所数

現況値	3箇所	目標値(2027)	5箇所
-----	-----	-----------	-----

目標3の評価指標:公共交通の運行に掛かる財政負担額

現況値	45,728 千円/年	目標値(2027)	45,728 千円/年
-----	-------------	-----------	-------------

目標3の評価指標:巡回バスの収支率

現況値	1.3%/年	目標値(2027)	1.3%/年
-----	--------	-----------	--------

7 計画の推進方法

各基本目標の達成状況について継続的にモニタリングを行い、事業ごとにPDCAサイクル(計画(PLAN)・実行(DO)・評価(CHECK)・改善(ACTION)の循環検討手法)の考え方に基づき、検証を実施します。

表 計画の推進方法

